203

政界第一線に立つ人々

小松丘彦著

森田書房版

特240
27

定價十錢

1

0004789000

0004789-000

特２４０－２７

政界第一線に立つ人々

小松丘彦・著

森田書房

昭和１１

ABC

この著作物は、著作権者不明のため、著作権法
第６７条の規定に基づき、平成１２年３月２
けで文化庁長官の裁定を受け使用するもので

特24
27

小松丘彦著

政界第一線に立つ人々

森田書房版

昭和一一年一一月一日

目次

内田信也……一
望月圭介……三
川崎卓吉……五
松野鶴平……七
見祐輔……九
鶴見助……一一
久原房之助……一五
中島知久平……一七
鳩山一郎……一九
太田正孝……二一
島田俊雄……二四
大口喜六……

鬼丸義齋……二六
永井柳太郎……二九
賴母木桂吉……三一
大麻唯男……三二
中野正剛……三四
清瀬一郎……三六
眞鍋儀十……三八
加藤勘十……三九
安部磯雄……四一
杉山元治郎……四二
石原廣一郎……四四
秋田清……四六

政界第一線に立つ人々

小松丘彦

内田信也

内田信也といへば、すぐに

『金は幾らでもやる、命を助けてくれ！』

と叫んだといふ例の列車顚覆當時を思ひ出すが、果して彼が、そんなことを言つたか何うかは疑問である。

しかし、その列車顚覆に關係ある鐵道省に、彼が大臣となつたことも、何かの因緣があるやうだ

彼が、政友會を脱黨して、岡田内閣に入閣したことについては、毀譽褒貶紛々たるものがあるが要するに政治家ともならうほどの者は、最後の目的は大臣であるから、心臓の強い彼にとつては、そんな世評などは馬耳東風である。

政見の一致しないために、脱黨して反對黨に入つたり、中立になつたりした者は、これまで内外の政治家に數へきれないほど前例がある。彼を指して『政權慾のために入閣した』と、一概に貶す譯には行かぬ。

彼は、茨城縣の生れで今年五十七歳、最初芝の正則中學に學んだが、あまり成績思はしからず、四年か五年の時に麻布中學に轉校した。

今日、彼は私立中學として好評ある麻布中學の卒業生のやうになりすまして、同校で柔道をやつてみせたりなんかしてゐるが、正則中學にもやはり母校として時たま顔を出してゐるなぞ、なかなか如才がない。

麻布中學を出てから東京高商に入り、卒業後直ちに三井物産に入つて、相當の地位まで進んだが歐洲大戰當時、船舶業の有利なことに目をつけて、自ら船會社を起して、忽ちの間に三千萬圓の巨利を獲得した。『命だけは助けてくれ』の噂も、この頃のことだ。

その後政界に入つたが、非常に親孝行の彼は、實業家になれば千萬長者になり、政界に入れば、大臣となつて老母をよろこばせたいといふ氣で一ぱいだつた。果して彼は、實業界では千萬長者になり、政界では大臣となつて、母をよろこばせた譯である。

海軍次官の時代、彼があまりに海軍通なのに世間を驚かしたが、實は、この間兵庫縣から立候補したばかりで、奇禍にあつて死んだ海軍通の平田晋策なぞが入れ智惠をしたといふ話もある。

昭和會は、殆ど彼によつて牛耳られてゐる。

彼は閣内で一番の早耳家だといふ噂をも聞く。

ともかく、將來性に富んだ男だ。

望月圭介

彼は、その風貌の示すが如く、人情味の豊かな男である。

内務大臣時代『人情大臣』といはれたのも、その一面を物語るものである。

青年時代から、自由黨に入つて、幾度も死生の間を往來してきたゞけに、度胸もあり、人情の機微にも通じ、政黨の情僞もよく解つてゐる。

岡田内閣に、床次遞相のあとをうけて入閣した時は、自由黨以來關係してきた政友會に絶縁することは、情において忍びないところであつたが、彼としては、政友會のために、深く考慮するところがあつた。

しかし、政友會では、行きがゝり上、彼を裏切り者のやうに言つて、追ひ出してしまつた。

政友會でも、涙をのんで馬稷を斬つた形であらうが、こんな大物を逸したことは惜しいことだ。黨内にごた〳〵があると、いつもその調停役に出たのは彼だつた。そのために黨内の抗爭も緩和されてゐた。果然、彼が離黨以來、黨内の抗爭は益々尖鋭化してきた。

幸ひ、岡崎邦輔のやうな苦勞性の男や、松野鶴平のやうな公平な男がゐて、どうやら纒めてゐるのは、何よりだ。

彼は、廣島縣の生れで齡すでに古稀に達したが、なか〳〵元氣である。」

青少年時代から、政黨に關係してゐて、正規の學問を修める暇がなかつたが、しかし彼は人間學としては、正に最高の學問を修めてゐる。彼の强味はこゝにある。

雄辯ではないが、人の心をつかむ演說はなか〳〵旨い。

曾て、田中善立と共に、衆議院からシベリア派遣軍の慰問に特派されたことがあるが、彼が到るところで、出征軍人を前にしての慰問演說は、惻々として人の肺腑に迫るものがあつて、非常な好評だつた。

現在、内田鐵相と共に昭和會を牛耳る人物だ。

川崎卓吉

彼は、まさか岡田内閣に、閣僚の椅子をかち得ようとは思はなかつたゞらう。

民政黨の幹事長として、總選擧の采配を振つてゐる眞つ最中、文部大臣松田源治が、思ひがけなくも、ぽつくり急死したので、町田總裁から希まれて、文相の椅子に着いたものだ。

全くの拾ひ物だつた。

しかし、彼の閲歴や手腕からいへば、とくに大臣となつてゐる筈だが、一意黨のためを思ふ彼は自分は縁の下の力持ちをしても、他の同僚を入閣せしむることに努力したものである。

彼は、松田前文相より二つ年上の六十六歳であるが、見かけはまだ五十臺の人のやうな若さを持つてゐる。

といふのは、彼の夫人はまだ三十八歳で、彼よりも約三十も年下で、しかも美人である、彼たるもの若返らざるを得ないのである。

明治三十六年、東大獨法科を出て、福井縣事務官を振り出しに、長崎、石川と地方稼ぎを爲し、その後永らく臺灣總督府にゐて、内務局長、警務局長、殖産局長などをしてゐた。

臺灣を引きあげた後、名古屋市長などをしてゐたが、突如内務省の警保局長になつて中央政界に現はれた時は、世間は、あまり聞いたことのない人物だけに、アッと驚いたが、その椅子についてみると、なか〳〵成績をあげて、名警保局長の名聲を博した。

それから内務次官になつて、大正十五年勅選議員となり、昭和五年民政黨内閣の時法政局長となり、同六年内閣書記官長となり、愈よ彼の政治家としての箔をつけてきた。

前文相は、パパ、ママの排撃論者だつたが、川崎は家庭でそれを呼ばしてゐるらしい。

世の中が、祖國主義に歸り、殊にわが國は一面排他的と思はれる位に日本主義になつてゐる今日あまりハイカラ過ぎた政策は何うかと思はれる。

だが、聰明な彼のことであるから、むろん旨く切りまはして行くだらう。

松野鶴平

政友會の大屋臺骨の臺所を預つてゐる松野鶴平は、適材適所である。

彼は人も知る通り野田卯太郎の女婿で、政友會の野田俊策とは、義兄弟の間柄だ。岳父野田大塊の感化を受けたものか、茫洋たる中に、人情の機微を知る叡智が閃めいてゐる。

こんどの議會解散と共に、自薦他薦の候補者が、ワンサ〳〵と幹事室に押し寄せて、彼は眼のまはるやうな多忙を極めたが、しかも彼は、その名刺を一目見たばかりで、會見すべきや否やを判斷

した。

即ち、これは當選の價値ある人物か否かといふことが、刹那に判斷がつくのである。

政黨の幹事長の仕事は、金をつくるのが一ばん大きい仕事であるが、今日のやうに、財閥が政黨に對して、あまり好意を持たない時代では、幹事長も金第に非常に骨が折れるであらう。

しかも彼は、ある新聞に『金のことは心配いらぬ』といふやうなことを豪語したことをみると彼の仕事には餘程自信を持つてゐるらしい。

政友會の內部には、總裁派だの、久原派だの、山本(条)派だの、鳩山派だの內部抗爭が堪へないが、今日の彼は、何れの派にもつかず、我黨本位に終始して、むしろこれらの各派の融和を計ることに努めてゐる。

彼は年齡漸く五十を出たばかりで、政黨人としてはこれからといふところである。

實家は、菊池武光の本據だつた熊本の菊池郡で、代々酒造業を營み、土地の資產家であるが、彼は學校で勉强することが嫌ひで、

「俺は、學校の月謝を拂ふやうだつたら、遊んで實社會の學問をする」といつて、とうとう正規だ

つた學問を修めなかつた。

しかし、彼の聰明さは、鄕里の政友會支部に出入してゐる頃から、嶄然長老連を壓して光つてゐた。

政友會に人材寥々たる折から、彼の如き大物が居ることは心强いものとせねばならぬ。

鶴見祐輔

一種獨特の筆致を以て、矢つぎ早やにいろ〳〵の著書を出版してゐた鶴見祐輔は、このまゝ著述家になつて了ふのではないかと見られてゐたが、こんどの總選擧で、突然民政黨の公認として岩手縣から名乘りをあげた。

岡山縣生れの彼が、岩手縣にどんな緣故があるか、筆者寡聞にしてこれを知らないが、小說『母』の著者として『ブルターク英雄傳』の飜譯者としても、相當にその名が、市場的價値を有してゐる彼のことであるから、何處から出ても、相當にやつて行けるだらう。

彼は、一新會を組織して、議會で武藤山治の實業同志會のやうな割役を果さうとしたが、思ふやうに行かなかつたやうだ。

それ以來、その後選擧にも立候補せず、專ら著述し主として講談社の雜誌に執筆してゐたが、根が政治家肌の男であり、萬事派出好みであるから、地道な著述家生活には向かないとも云へよう。

だが、文筆は性來得意とするところであるから、政治家になつても、出版屋から頼まるれば、よろこんで執筆するだらう。

彼は、後藤新平に愛されて、その令嬢をめとり、官界生活も永い間やつてゐた。

歐米にも派遣されたことがあつて、英國などには、彼の親友と稱する者が澤山あるやうだ。

英國の新聞雜誌などに、日本人の漫畫が出てゐる中に、彼の顏にそつくりなのが出てくるのも、彼をモデルにしたのではないかとさへ思はれる。

東大政治科の出身で、當年五十二歳、脂の乘りきつた時代である。

彼の本當の活躍は、むしろ今後に期待すべきであらう。

政界に待望久しい傑人とは彼の如きを指すかも知れない。

久原房之助

『久原といふ男は、何を仕出かすかわからぬ。底の知れぬ怪物だ。』

といふのが、一般の定評だ。

代議士に當選して政界に入ると、いきなり遞信大臣になつて、政友會普代の政客連を羨ましがらせたものだが、時の總理大臣田中義一と久原とは、「君、僕」の間柄であり、財的には三井、三菱を向ふにまはして飛躍しようといふ立場にあつた彼であつてみれば、田中がいろ〳〵の意味で、久原を入閣させたのも無理はない。

間もなく彼は、外務大臣となる段取りとなつてゐたが、田中內閣瓦解のために、それは實現しなかつた。

鑛山屋さんが、外務大臣になるといふのは、ちよツと變に聞えるが、久原には、外務大臣になる資格が立派にあつた。

外務省畑の溫室に育てあげられた者必ずしも、外交通といふものではない。彼等は、外交的儀禮や、數字的知識は、門外漢より優れてゐるだらうが、大局を見るの明は、鹿を追う者山を見ざる譬へにもれず、却つて門外漢の方が、よくわかるものである。

歐洲大戰後、久原は世界漫遊をして、各國の知名な政治家と會見したが、その結論は、知名の政治家必ずしも實力あるにあらず、たゞ歐米では政治家も、實業家も、學者も協力一致して國策の遂行に努力してゐる——といふことにひどく感心し、日本にもこれを實行したいと思つた。

歸朝の途次、奉天に張作霖を訪うて、東洋の平和は、日支の親善にあることを、種々の角度から說いてみたが、馬賊あがりの政權慾一方に凝りかたまつてゐる作霖に、それがわかる筈はなく、彼は非常に失望した。

彼は、歸朝後、田中義一に滿洲獨立論を皷吹し、田中も亦これに共鳴して、着々これが下拵えをしてゐた折から、支那の革命軍の手によつて、滿洲が統一された。

久原は、田中と相談の上、張學良に向つて、例へ滿洲が中華民國に統一されても、革命軍の青天白日旗を揭げてはならぬと交渉したが、あとで外務省の連中がこれを聞いて、外務當局に何等の相

談なく、そんなことをされては困ると、苦情を申込んだものである。

手續き上の手落ちは兎もかくとして、これほどの覇氣がなくては、今日の日本の外交は伸びないのである。

この意味において、若し久原が外務大臣になる機會があつたら、面白い芝居が打てたであらうに——。

然し、滿洲も久原等の希望通り、愈々獨立國になつた。彼も、往年を懷古して今昔の感に堪へないだらう。

彼は、鈴木總裁の意志に反して、平然として一國一黨主義を唱へ、最近は國體明徵論に力瘤を入れてゐる。

また、この間『文藝春秋』に、重臣ブロック排擊論を書いて、日本改造の片鱗を示してきたが、これは各方面に可なりの衝擊を與へてゐるやうだ。

彼は、決してたゞの前垂れがけではなかつた。彼が、營々として金を作つたことも、その主義主張を、政治の上に現はすための下準備のやうにさへ見える。

恐らく、彼の今後の活躍は、端睨すべからざるものがあらう。

彼は、長州の出身で、今年六十八だ。廿二歳の時、藤原銀次郎や、望月小太郎や、磯村豊太郎等と一緒に、慶應義塾を卒業した。そして、初めて森村組に入つたが、その仕事は倉庫の番人で、月給三圓だつた。

彼は、何事も、最下級から叩きあげねば本當の仕事の味は判らぬといふので、その後小坂鑛山に入社した時も、坑夫の仕事をしたものだ。

それが、政界に這入ると、いきなり遞信大臣になつたのは、その主義といさゝか矛盾してゐるが、しかし彼はこれまで、政界のことは、ちやんと勉強してゐたのであるから、敢て一年生といふ譯には行かぬ。

彼は、各層にわたつて、子分もだいぶ養つてゐるやうだから、彼の旗擧げの時には、眞劍になつて働く者も出てくるだらう。

中島知久平

中島知久平は、當代稀に見るスケールの大きい政治家である。

政治家たらんと志す者の多くは、自己の名譽慾を滿足させるためや、政權を利用して金儲けをしようといふのであるが、彼れ中島に至つては、全然これと反對してゐる。

彼が、軍人をやめて、飛行機製作業を始めたのも、貧弱なわが國の航空事業の發展に資せんとする報國の誠意から出發したものであり、代議士になつたのも、議政壇上において國策遂行に協力せんがためであつた。

彼が、第五十九議會において、倫敦條約問題につき、幣原代理首相を向ふにまはして、敢然として戰つたことは、あまりに有名な話であるが、しかも彼は、この時、政治家としてはほや〳〵の一年生だつた。

それが、外交問題にかけての權威である幣原を、ギユウ〳〵と脂を絞つたのであるから、世間で

は初めて、中島知久平といふ大きい存在を知つた。

といふのは、彼が例へ政治家としては一年生でも、國策に對して確乎たる信念を有してゐるのでその言ふところは、言々句々悉く相手の肺肝に、利刀を擬したことになつたのである。

それ以來、彼は所屬の政友會に於て非常に重用せられて、院内總務となり、顧問となり。さらに商工次官となり、超スピードの躍進ぶりを示した。

彼は、現下のわが國の情勢より見て、常に國策を研究しておく必要のあることを痛感して、獨力を以て國策研究所を設立し、多額の費用を投じ、内外の政治機構や情勢について、周密なる研究をなしつゝある。

これなどは、彼が常に國家を念頭においてゐる一證左である。

彼は、群馬縣の産で、齢漸く五十三、その豊富なる財力と、透徹したる理智と、而して熱烈なる愛國心とは、將來愈々、彼を大ならしむるものである。

筆者は、彼が海軍大尉を退いて、群馬縣に飛行機製作所を新設した際、飛行記者たる以所を以てその披露宴に招かれたことがあるが、その時の彼は、痩軀猾介の風があつて、果して何處まで伸び

るかと疑はしめたが、その後、雜誌「雄辯」から、彼の傳記を依頼されて、これを調査した結果、意外な成功をしてゐることに一驚を喫したのであつた。

寫眞で見たのであるが、今や、彼はその風貌の上にも大きな變化を來し、福德圓滿なる中にも剛毅果斷の閃きを見せ、何處かムツソリーニに髣髴たるところがある。

それかあらぬか、彼は邸内にライオンを飼ひ、これを愛撫してゐるところは、ムツソリーニの趣味に共通な點がある。たゞ、根本的に違つてゐるのは、一は獨宰的政治を標榜し、一は立憲的强國論者である。

ともかく、將來の總理大臣級の人物たることには間違ひなからう。

鳩山一郎

ことし五十四歳にもなつて、東京市會議長をやつたり、内閣書記官長をやつたり、さらに文部大臣にまでなつた彼を、世間で坊ちやん扱ひにするのは、何故であらうか。

思ふに、彼の亡父和夫氏や、母堂春子女史が、あまりにも光つてゐて、その印象がまだ現在の中年者以上の頭に殘つてゐるためではあるまいか。

彼を、坊ッちやんなどゝ思ふのは、大きな間違ひで、彼は人並以上に世才に丈け、政治的手腕がある。

尤も、彼が議院で大隈伯の演說中に、壇上へ駈けあがつて、その演說原稿を破つたり、曾て、彼の家の書生だつた鈴木富士彌を、議院の食堂で、柔道の手で投げつけたりしたところを見ると、いかにもまだ坊ッちやんらしいが、今日の彼は、すッかりその坊ッちやん臭味を脫して、押しも押されもせぬ大政黨の領袖らしい貫祿を備へてゐる。

春子女史と共に、女子教育界の双璧といはれてゐた棚橋絢子女史の令息一郎も、やはり鳩山一郎と共に政界に乘り出し、双方の母親がわが子の出世競べをしてゐたものだが、棚橋一郎の方は、くだらないことで、市會疑獄でつまづいてしまつたが、鳩山一郎の方は、ぐん〳〵出世して行つた。絢子女史としては殘念でたまらぬだらう。

鳩山も、明鏡止水を叫んで文相の椅子を投げだしたり、帝人事件の證人に呼ばれたりしたが、別に彼の身に疵がついた譯でもないから、時の移ると共に彼はその念願のやうに總裁になるかもしれぬ。

薫子夫人も、まだ花嫁のやうな感じを世間に與へてゐるが、すでにその娘さんは、お嫁に行つたのであるから、夫君と共に年を取つてゐる譯である。しかし內助の功では、當世夫人の標本としてよからう。

太田正孝

文壇などでは、五十を越せば、もう老人扱ひにされ、どうかすると「翁」などゝいふ皮肉な敬稱を奉られるのであるが、政界では、五十や六十では、まだ少壯組として取扱はれてゐる。

太田正孝は、ことし漸く五十を一つ越したばかり、彼が政友會中の新人として重寶がられてゐるのも當然だ。

彼は、靜岡縣の天龍川の河畔の町に生れ、東大經濟科を優秀の成績で卒業したが、元の報知新聞

社長三木善八に見込まれて、その愛娘を娶つた。

その縁故で、報知新聞社に入つて、副社長となり、事實上の社長として、同社の經營に當つた。

彼が副社長時代に大震災に遭遇したが、幸ひ震火の災厄を免れたので、彼はこの時とばかり、手に唾して起ちあがり、忽ちにして發行部數も帝都において一二を爭ふまでに漕ぎつけた。

その後、大阪系の兩大新聞が、巨大な資本力を以て、關東制覇戰を開始したゝめ、折角順調になつた報知も、次第に押され氣味になつた。

彼は、この邊で新聞を見限つて政界入りをした。

郷里靜岡縣の第三區から立候補したが、最高點で當選し、政友會本部を唸らせたものだ。

彼は、經濟學博士であるだけ、經濟のことなら、黨内――否、全政客切つての權威者である。若し、議會が解散されなかつたら、彼は得意の經濟論を携げて、大口喜六と共に大いに、岡田内閣の財政々策を痛擊する筈だつたらしい。

彼は、よく飲み、よく語る。興いたれば、おはこの鴨綠江節を歌ふが、いつも尻切れとんぼになつて、さきが續かない。

しかし豪快なる彼は、客や女に聽かせるために歌ふのでないから、どんな拍子外れの歌でも、平氣でやる。こゝにも彼のスケールの大きい半面が窺はれる。

義俠心があつて友情に厚く、然諾を重ずるところ、大親分の面影がある。黨務にも熱心であり、專攻の經濟學も勉强を怠らないから、新しい型の政治家として、將來性に富んだ男である。

島田俊雄

政友會における大臣級の人物だ。

政局が政友會に有利に展開した時には、イの一番に入閣する男だ。

こんどの休會明けの議會では、彼の陣頭に當つて、内閣不信認論を一席やらせる計畫で、彼もまた手ぐすね引いて待つてゐたが、政府としては、彼のやうな雄辯家に饒舌られては、たしかに致命傷を受けるものと思つたのが、遂に三大臣の施政演說の直後に、解散を斷行してしまつた。

濱口内閣の頃、豫算總會で凶彈に負傷した濱口首相に同情しながらも、一面において幣原臨時總

理を、完膚なきまでに遣ツつけて、反對黨の民政議員にまで、

『さすがは島田だ。』と、舌を卷いたといふ過去を有してゐるだけ、政府でも彼の雄辯には恐れをいだいてゐる譯である。

明治十年島根縣に生れ、同三十三年東大政治科を出たが、松岡均平、神戸正雄、森賢吾に次ぐ四番の成績であつたから、大學では彼を教授として引留める豫定だつたが、偶々彼が吉原通ひをしてゐる事實が曝露したので、

『女郎買ひをするやうな男を、教授にするのは御免だ。』

といふことになつて、彼は教授になれなかつた。

しかし、今から考へてみると、何が人間を幸福にするかわからない。

二十六歳の若さで、東京市の教育課長になつたが、彼は當時沈滯し切つた市教育界に、一抹の新鮮味を吹きこむため、十七八名の小學校長を免職し、さらに七十餘人の校長全部の更迭を行ひ、これに伴ふ異動約三百件に及んだ。

時の市長尾崎行雄は、

『だいぶやりをるな。』

と、彼の提出した轉免書類をめくりながら言つた。彼は、

『私は、斷じて私心を持つてやつたものではありません。市長が御覽になつても、その適否の判斷はつきません。』

と言つたので、尾崎は、

『さうか。君が責任を持てばそれでよろしい。』

と言つて、手早く判を押した。

こんな風で、彼は生一本な剛直な男である。現に、彼は政友會總務であるが、乾分などをつくらない。自分の實力一方で押し通さうといふ肚である。

若し彼の半面に、抜けたやうな茫洋たるところがあつたら、彼はもつと早く出世してゐたかもしれぬ。

大口喜六

大口喜六は、現代の政治家中、きはめて眞面目な男である。

彼の財政通は、あまりにも有名だが、特に地方財政においては、何人にも讓らぬ精通ぶりである

といふのは、明治二十八年、彼の郷里である愛知縣豐橋（當時町制）で町會議員をやり、さらに渥美郡會議員となり、縣會議員となり、後に縣、郡、町の各會議長となり、後に豐橋市長、豐橋商業會議所議員に擧げられ、地方財政について、研究と經驗をつんだ結果である。

一足飛びに、衆議院議員になる者が多いが、彼は前記のやうに、町會議員を振り出しにして、一歩々々と進んできたのであるから、机の上で、でッちあげた理論とちがつて、なか〳〵根强いものである。

彼の財政論が、黨の如何を問はず謹聽さるゝのもそのためである。

明治四十五年、初めて愛知縣下から衆議院議員に當選し、爾來當選すること前後七回、さきに犬

養の傘下にあつて、國民黨、革新倶樂部に屬し、非常に犬養の信任を得てゐたが、大正十四年、同倶樂部が政友會と合同するに及んで、犬養その他の同志と共に政友會に屬した。

それ以來、同黨の樞機に參畫して、黨内に重きをなし、田中内閣の高橋、三土兩藏相及び犬養内閣の高橋藏相の下に再度政務次官となつて、大臣を補佐した。

現に、政友會總務である外、日本藥劑師會顧問、東京藥學專門學校顧問などをしてゐる。

彼が、藥に緣故のあるのは、實家が藥種屋である上に、青年時代家業を繼承するために、東京藥學校、東京帝大藥學科を卒業して、藥劑師となつてゐるためである。

醫藥分業問題が議會に持ちあがるために、彼が一と役買つて出るのも、そのためである。

彼は當年六十七歳だ。

眞劍で、くだらない策動や、利權あさりなどをせず、一意政務のために盡してゐる。

全く、現代の政治家には、稀に見る人格者である。

彼は、普選第一回の總選擧に、名古屋から中立として立候補し、見事に金的を射落して、政界にスタートを切つた男である。

最初、民政黨の公認として出ようとしたが、黨では、殆ど問題にせず、從つて公認も許さなかつた。

ところが、いよ〳〵當選してみると、本部から、安達謙藏や、名古屋支部の小山松壽などが訪ねて來て、これまでの認識不足を詫びると共に、熱心に入黨を勸誘した。

元來、俠氣があつて、情に脆い彼は、これらの人々の熱心にほだされて、遂に民政黨に入黨したが、自力で當選して、無理に引ツ張りこまれたのであるから、黨内でもなか〳〵大事にされ、政治家として新米であるに拘らず、直ちに樞要な役割を與へられた。

彼の一枚看板は『不當拘束による國家賠償』である。

といふのは、彼が永い間警察官や辯護士をしてゐる間に、無辜の良民が、何等の罪なくして、檢察當局の見込みちがひのため拘束され、その嫌疑が晴れると、そのまゝ抛り出される。しかし、本人に取つては、そのために受けた精神的苦痛や、物質的損害は絶大なものである。だが、天に訴へても、地に哭しても、誰も相手にする者がない。つまり、泣寢りとなるのである。

彼は、この事實を見て、常に慨嘆してゐたが、いよ〳〵普選が實施されたので、この機會に、この問題を捉えて敢然と起ちあがつたのである。

未だ曾て、こんなスローガンを掲げた候補者がないだけに、そして名古屋の市民が、比較的知識階級であるだけに、それが彼等の胸を打つて、かれらの支持の下に當選したのであつた。

彼の提唱したこの國家賠償法は、議會を通過して、遂に法律として制定さるゝに至つたが、この間バス屋殺しの容疑者として永らく未決監にあつた男が、嫌疑が晴れて釋放さるゝと同時に、莫大な賠償金を貰つたのも、實にこの恩惠によるものである。

彼は、その後民政黨を脱して、鶴見祐輔等と共に、一新會を組織したが、その頃世間では、この行動に對して、とかくの風評があつたけれども、彼としては、政治家として行くべき道を行つたゞ

けで、天地に俯仰して恥ぢないところであつた。

その後、彼は病氣のため政治生活を斷念し、ずツと雌伏してゐたが、こんどは又名古屋から政友會の公認として立候補したやうだ。

定員五名に對して、十人の候補者であるから、相當の苦戰であらう。

彼が、政治家になつた動機には、面白いエピソードがある。

彼が、名古屋のある警察署の司法主任であつた頃、何かの事件で、時の警察部長と意見の相違から、ひどい喧嘩をしたことがある。

しかし、相手が上官といふ肩書のために、彼は負かされてしまつた。

自分の方に理窟があると信じてゐる彼は殘念でたまらず、

『よし、俺は政治家になつて、こんな無法な役人をたしなめてやる。』

と決心し、職を辭して明治大學に入學した。

彼は、その時すでに三十を過ぎ、妻帶をしてゐたが、別に貯へがある譯でもないから、非常な苦學をした。しかし螢雪の勞空しからず、明大あつて以來の優秀な成績で卒業し、再び名古屋に來て

辯護士を開業した。

辯護士になつてからの彼は、總てがとん〳〵拍子に進んで、遂に辯護士會長に推されたのであつた。

彼は大分縣の產、當年漸く五十一だ。恐らく彼は、捲土重來の勢ひを以て政界に活躍するであらう。

永井柳太郎

『西にレーニン、東に原敬』

とやつて、議場を唸らせた當時の永井は、議員中の新人として持てはやされたものだが、今日ではすツかり民政黨の大先輩になつてしまつた。

殊に、齋藤內閣に拓務大臣の椅子を占めてからといふものは、彼の政治的地歩は、益々確乎たるものとなつた。

無髯で、口が大きく、それに片ちんばのところは、大隈伯そッくりだが、彼も亦自ら次ぎの大隈を以て任じてゐるやうだ。

早大系の青年學徒の間に、彼の演説口調やゼスチュアをマネるものが多いのも、彼が青年の間に人氣を博してゐることがわかる。

明治三十八年、早大を出てから、英國のオックスフォードや、マンチエスターカレッヂに學び、英語演説にかけても堂に入つたものである。

英國留學中、リウマチに罹つて、とう〳〵びッこになり、折角將來飛躍しようと覺悟してゐたのを出鼻を挫かれたが、看護婦から、

『足一本を惡くしたぐらい何ですか。』

と激勵されて、大いに發奮したといふローマンスを有つてゐる。

第二の五十萬元事件の與太を飛ばされて一時迷惑してゐたが、むろんそれは根も葉もないことであるから、すッかり世間の誤解を解消して、勇ましく石川縣の第一區で遂擊戰をやつてゐる。

當年五十六、これから何回も大臣になる立場におかれてゐる。

賴母木桂吉

その貴公子然たる風貌と、堂々たる風貌とは、まだ六十そこ〳〵の人のやうに見えるが、彼はすでに七十歳だ。

尤も、政治家としての七十歳は、働き盛りであるから、決して老人扱ひにすることはできない。

『キミヒラ朝臣』といはれる松本君平は、賴母木より一つ年下の六十九歳だが、彼が流行の洋服を着て鼻眼鏡をかけて、白髪一つない血色のいゝ顏をしてゐるのを見ると、まるで五十そこ〳〵の人のやうだが、それに比べると、賴母木なぞも、もつと若くていゝ位だ。

永らく新聞生活をしてゐたゝめ、政界に入つたのも遲いが、しかし一とたび政界入りをすると、めき〳〵頭角を現はしてきて、これまで幾度も樞要な役割を務めてきた。

內閣審議會が設置さるゝや、その委員に擧げられ、同會に重きをなしてゐる。

松田文相の急逝後、賴母木を文相にといふ説もあつたが、賴母木は、

『自分はその器にあらず。』

と、自らこれを辭退して、後進に道を開いたとも傳へられてゐる。

目下、東京の第三區から立候補してゐるが、彼は永い間、殘草の三筋町に居住し、同區民の間にも信用があり、殊に中堅どころの市民に信頼されてゐるから、その地盤はなか〳〵鞏固だといふことだ。

大麻唯男

兩大政黨の幹事長に、申しあはせたやうに、熊本縣出身の男を、据えたのは面白いコントラストだ。

即ち政友會には、熊本縣菊池郡出身の松野鶴平を、民政黨には熊本縣玉名郡出身の大麻を置いたのである。しかも、兩人とも、熊本縣から立候補してゐるのだから面白い。

選擧の神様といはれた安達謙藏もまた熊本縣の出身だが、現在の幹事長は、總選擧の仕事が一ばん大きいから、選擧の神様の出身地から、特に拔擢したのでもあるまいが——

大麻としてみれば、幹事長の椅子は、すでに前に試驗ずみになつてゐるから、決して有難いものではないが、彼がこんど町田總裁から推薦されたのは、前の幹事長ぶりが、よほど良かつたからであらう。

彼は、東大政治科を出てから內務省に入り、大塚惟精が外事課長をしてゐた頃、その部下として働いてゐた。

同鄕の先輩小橋一太に可愛がられ、同時に小橋夫人にも、非常に信用があつた。

小橋が、清浦內閣の書記官長となるや、彼は首相秘書官として、活躍したものである。

小橋と共に民政黨に入り、小橋が文相となるや、文部參與官として納まり、新聞記者などを相手に、毎日非のない氣焰をあげてゐたものである。

彼は、徹頭徹尾同鄕の先輩に引き立てられたが、今日では、もう先輩など必要のないまで確乎たる地盤を造りあげてしまつた。

彼の家は代々劍客であつた關係で、彼もまた劍道の達人である。また彼の詩吟は堂に入つたもの

だ。

中野正剛

彼は、永井柳太郎と共に、議會の新進雄辯家の双璧として推稱せられた。

しかも、永井の演說が、徒らに美辭麗句に走つて、どうかすると、甘く見られることがあるに反して、中野の演說は、秋霜烈日の如く、舌端火を吐くといふ底のものである。

だから、恐しい迫力と魅力がある。

彼が、別に財力がある譯ではなく、大きい背景があるでもないのに、ぐん〳〵政界の日向にのしあげて來たのも、この意氣と、粘着力の强さであつた。

彼は、明治十九年の生れで、當年五十一歳、早大卒業後、直ちに東京日日新聞社に入社したが、雄蜂のやうにコキ扱はれるのを憤慨して、東京朝日新聞の政治部に轉じた。

彼が、同社在社中に連揭した『日本憲政發達史』(?)は、漢文句調の流麗な文章で、當時の讀者

を魅了したものである。

思想は、どちらかといへば日本主義的で、鄕里の先輩頭山滿翁から可愛がられた。

鄕里福岡から代議士に出て以來、民政黨に屬し、總裁の演說草稿や、黨の聲明書などは、殆ど悉く彼が書いたものである。

安達謙藏等と共に民政黨を脫して、國民同盟を組織したが、同黨もやはり旣政々黨の羈絆を脫し得ざるものとして、彼は遂にこれも脫黨し、こんどの選擧では、中立として福岡から出馬した。

先年、足を痛んで、遂にびツこになつたが、そのために少しも意氣が衰へることなく、ツイこの間は、支那各地を視察した。

好辯の相手たる永井柳太郎がびツこであるが如く、中野も亦びツこの仲間入りをしたのは、奇異な對照である。

蓋し、春秋に富む政治家として、その將來を刮目して待つべきである。

清瀬一郎

勞働運動華やかなりし頃、彼はこの時潮に乘じて、政界に現はれた變り種である。

多くの勞働運動者が、感情的に勞働大衆をアジつてゐる時、法學博士清瀬一郎は、その該博なる知識によつて、理論的に勞働運動を指導してきたものである。

蓋し、彼が初期の勞働運動に貢獻した功績は、特筆大書すべきであらう。

しかも彼は、時勢の推移を見ることに敏である。

從來の勞働運動が、躍進日本の國情に適しないことを知ると、彼はこれを清算して、日本主義に轉向したのであつた。

五・一五事件の公判に當つて、彼は自ら進んでこの辯護に當り、その辯論は大いに法務官を傾聽せしめた。

曾て彼が、衆議院の議長席にあつた頃、政友會の猛者連の襲撃を受けて、血みどろになつたことは、有名な話である。

その時、彼は少しも怯るまず、敢然として議長席を守つてゐたのは、さすがに勞働運動で膽を錬つて來た男だけはあると思はせた。

民政黨と、主義の相違から袂別して、安達謙藏を中心とする國民同盟を組織し、現にその幹事長となり、手許不如意な臺所を切りもりしてゐるが、一人去り、二人去りして、同黨が次第に人數を減じつゝある今日でも、彼は後生大事に黨の牙城を守り、こんどの總選擧によつて、一氣に勢力を挽回しようと努めた。

その健氣な意氣こそ、大いに買つてやるべきだ。

今日では、全く安達御大の片腕であつて、彼の一擧手一投手が、直ちに黨の消長に及ぼすやうになつてゐる。

守操堅き彼のことであるから、恐らく安達と共に、とことんまで猛進するものと思はれる。

眞鍋儀十

普選運動が、漸く盛んになつてきて、日比谷公園や芝公園などで、國民大會が開かれた時分、怪しい腰つきで馬上から學生團や、群集を指揮してゐた青年があつた。

肩から斜めに『普選即時實行』など〻書いた白襷をかけてゐるのが、ひときは人目を惹いたものだ

それは、眞鍋儀十がまだ明大の法科に在學中のことであつた。

彼は、このために幾度檢束されたかも知れない。ある時は、日比谷公園で、馬上から群集を指揮中、當時の監察官だつた正力松太郎から、足を掬くはれて、コロリと馬上から轉ろげ落ちたこともある。

當時の古新聞をひもといてみたら、彼が兩腕を警官に扼されながら、群集の中で檢束される寫眞を發見するであらう。

彼は、そんなことに屈服する男ではなかつた。彈壓を受くれば受けるほど、彼の勇猛心は湧き起

つて、普選の運動の會場には、血を吐くやうな彼の姿を見ないことはなかつた。

その頃、彼と一緒に普選運動をやつた大學生も少くなかつたが、殆どその大部分は、この彈壓のために屁古垂れて、いつの間にか姿を消してしまつた。

いよ〳〵普選が斷行されて、民政黨內閣が成立し、小泉又次郎が衆議院の副議長となるや、彼は小泉の秘書に拔擢された。

普選運動の音頭取りは、いつも小泉や大竹貫一などだつたので、小泉は、よく眞鍋の奮鬪を知つてゐた。で、そのお禮心だつたかもしれぬ。

その後、彼は普選によつて東京の第四區（本所、深川）から立候補し、見ごとに當選して、議政壇上の人となつた。

彼は長崎縣の出身でまだ四十五歳だ。大いにその前途を囑望されてゐる。

加藤勘十

加藤勘十は、新聞記者を振出しに、社會運動に這入つたともいへるし、社會運動から新聞記者になつた男ともいへる。

藤田勇が、東京毎日新聞を經營してゐた頃、彼は、社會部の勞働記者として入社し、從來、關係してゐた社會運動關係をたよつて、ズバ抜けた特ダネを集めてゐた。

その時の編輯局には、尾崎士郎だの、水谷竹紫だの、華原華山などがゐた。

社をやめた彼は、その頃（大正九年）、わが國に燎原の火の如く擡頭してきた勞働運動に從事し、八幡製鐵所の爭議の際は、淺原俊三などゝこれを指導した。

淺原の有名な著書『熔鑛爐の火は消えたり』といふのは、この時の爭議を書いたものである。

加藤は、このために、しばらく獄に投ぜられてゐた。

彼の兄加藤鯛二は代議士だつたが、弟があまり過激な勞働運動に身を投ずることを、非常に心配してゐたが、しかしこれを阻止するやうなことはしなかつた。

その後、社會大衆黨に入り——といふよりも、それを組織し、いちど東京府第五區から立候補したが、演說會は非常な人氣で、この分なら優秀な點數で當選するだらうと思はれてゐたが、惜しいところで落選した。

こんど立候補すると、アメリカに悠々と祖國の非常時をヨソにして研學してゐる大山郁夫から、激勵の電報が來たが、それは彼は昨年勞働視察員として渡米した際、故國の社會運動について、胸襟を開いて語りあつた結果、兩人の思想がピツタリ歩み寄つた爲めだらうといはれてゐる。

彼は、今年四十五歳、身を持すること非常に淸廉で、家庭生活なども極めて質素、夫人は家內勞働に從事して、夫君の生活費の負擔を輕くすることに努め、大いに內助の功を擧げてゐる。

社會運動家の家庭としては蓋し模範的である。

安部磯雄

一金千五百圓也の選擧費で東京の第二區から立候補した安部磯雄は、すでに立候補當時から、新聞で騷ぎたてられてゐるだけ、彼の人氣は大したものである。

彼は、古い社會運動家で、演說に著述に、そして早大の講壇から、社會運動の啓發に當つた功績

は、わが國社會運動史上に特記すべきものである。

同志社の出身で、當年七十二歳、彼れ特異の頭髪は、いよ〳〵白さを加へてきたが、老來益々意氣旺盛で、社會大衆黨の中央執行委員長として、眞劍な活動をしてゐる。

彼が、社會運動家であるに拘らず、何處かに人倫の導き閃きがあるのは、青年時代に同志社で受けたキリスト教の感化があるからであらう。

社會大衆黨には、鈴木文治、麻生久、龜井貫一郎、片山哲、杉山元治郎、河野密、淺沼稻次郎、水谷長三郎、河上丈太郎等をはじめ、錚々たる闘士があり、これらは何れも立候補し、その數約三十に及ぶが、若しこれらの大多數が當選したら、安部は差しあたり一黨の總裁格として、議會に相當な地歩を占むるであらう。

杉山元治郎

全國農民組合中央委員長として活躍してゐた彼は、感ずるところあつて、社會大衆黨に入黨したが、東の安部磯雄に對し、西の安部磯雄として、黨員の間にも一般者の間にも、非常な信望がある。

彼は、安部のやうに雄辯ではなく、むしろ訥辯であるが、しかもその一言一句は、悉く彼の肺腑を衝いて出るのであるから、聽衆を感動させずにおかぬ。

農民の間には、特に信頼され、まるで神様のやうに言はれてゐる。

この前の總選擧には、これらの人々に推されて當選し、安部と共に、社大黨の雙璧として、議會に光つてゐた。

彼は、大阪の生れで、當年五十二歳、東北學院を卒業後、齒科を學び、大阪市外布施町で、齒科醫を開業し、貧困者からは、治療代を取らないといふ風であつたから、益々繁昌して、齒科醫としても立派な成功者であつた。

この醫院に出入りする貧農の患者からつぶさにその窮迫した生活狀態を聞くに及んで、彼は、惻隱の情禁ず能はず、

『これらの憐れな人々を救ふのは、現在の政治を善くするより外にない。』

と決心して、社會運動を始めたものである。

非常に眞面目で、聖者のやうな半面を有してゐるから、彼の發言は、同志の間にも尊重されてゐる。

石原廣一郎

明倫會に所屬し、その主柱とも云ふべき石原廣一郎は、政界の一異色として、最も興味を惹く、一人である。

彼は、政治家といふよりも、むしろ思想家といふべき男だ。

思想家といつても、書籍からきた知識ではなく、實地に體驗した知識を基礎とした思想家である

彼は、獨力を以て南洋に鑛山業を營み、その鑛石は悉く八幡製鐵所に納入して、わが國の產業と國防上に、多大の貢獻をなしつゝある。

今や、彼の資產は一千萬圓と稱されてゐるが、五・一五事件前後から、わが國の政治が腐敗墮落の極に達してゐるのを、遙かに南洋から眺め、

『これは、どうしても、今の內にメスを入れて切開手術を行はなければ、日本は救ふべからざる狀態に陷る。』

と考へ、私財を投じて、神武會や、明倫會を起した。

神武會は、後に大川周明博士に一任し、田中國重大將等と共に、專ら明倫會に力を入れて、國家改造運動を起した。

彼が、國家改造運動に、いかに潛勢力を有してゐるかは、苟も國家を念とするものは、誰も知らぬ者はない。

彼は京都の產、今年四十七歲の男ざかりだ。

彼は、最初官吏たらんとして、立命館大學を出たが、高文にパスすることが出來なかつたのを機會に、官吏志望を斷念し、令弟新三郎氏が經營してゐる南洋のゴム栽培に從事するために、大正五年渡南した。

そして、シンガポールに上陸すると、その鋪道のバラスに、褐鐵鑛を利用してゐるのに興味を感じ、ゴム事業の傍ら、その鑛源を探檢してゐるうち、大正八年バトハの大鑛床を發見した。

この鑛源を發見するまでの苦心、それから廿五萬圓の資本を以て、南洋鑛業公司を創立するまでの資金調達については、面白い話があるが、こゝでは紙數に限りあるので略するが、ともかく彼はこれを物にするまで、血みどろの奮鬪をしたのであつた。

彼の溫和なる容姿は、一見、キ眞面目なサラリーマンのやうだが、彼の胸中に燃ゆる烈々たる憂國の至情は、何物をも燒きつくさねば已まぬものがあり、その著『日本改造論』は、とかくの評があるが、惻々として人の胸を打つものがある。

彼は、國家改造運動を始むると同時に、事業を一切令弟に讓り、裸一貫となつて、主義のために邁進してゐる。

彼の將來こそ正に刮目に値する。

秋田清

昭和九年十二月の議會開會を前にして、突如、衆議院議長の椅子を投げ出し、同時に政友會を脫

黨した秋田清は、その後、日比谷の宏壯な邸宅に引ッこんでしまつたが、しかし、彼は今に何かやる！といふ評判で持ち切つた。

果して、彼の邸宅に、暮夜ひそかに、何々派の陸軍大將が訪問したいの、某政黨の幹部と何處の待合で會合したいのといふ噂が、次ぎから次ぎと絶ゆる暇がなかつた。

果して、それが事實か何うか判らぬが、ともかく、かうした噂の立つだけ、彼の存在がハッキリしてゐることが立證されるものである。

彼は、德島縣に呱々の聲を擧げ、當年漸く五十六歲、政友會の前田米藏等と共に、中央大學を卒業し、辯護士判檢事の試驗に合格し、短期間法官だつたことがあるが、間もなく新聞界入りを思ひ立つて、當時、帝都新聞界に素晴しい勢ひで進出してゐた二六新聞（今日の二六新報の前身）に入り、社長秋山定輔の下に副社長となつた。

その頃、彼はまだ三十そこ〳〵の青年だつたが、編輯、營業兩方を切りまはして、新聞界の新參とも見えぬ鮮やかな手腕を發揮したものである。

三十二歲の時、初めて鄕里德島縣から、中立で立候補して當選し、爾來當選すること七回、曾て

桂太郎の統率する同志會に在つた時は、木下謙次郎、長島隆二と共に、桂の三羽烏として、縱横の奇略をめぐらしたものだ。

桂の歿後、加藤高明が同志會を牛耳るや、彼は、

『俺は、加藤は虫が好かぬ。』

と云つて、犬養毅の國民黨に轉じた。

そして、犬養の智惠袋となつて、國民黨や、後の革新倶樂部を思ふやうに操縱し、益々政治家としての力量をあげてきた。

革新倶樂部が、政友會に合同するや、彼は忽ち政友會においても、その袖領となり、『秋田クロシ』のニツク・ネームそのまゝに、なか〳〵際どい肚藝をやつた。

鳩山一郎や、森恪が書記翰長時代に、黨の態度を決するやうな時は、いつでも秋田のところに飛んでいつて、かれこれと相談したものである。しかも、彼の狙ひは、殆んど外れるところがなかつた。

要するに彼は、頼み甲斐のある頼母しい男である。一體、智惠の優れたものは、口先ばかり達者で、イザといふ場合、頼りないこと夥しいが、彼は然らず、智惠もあり、度胸もあり、俠氣もあるといつた男である。

政界、いよ〳〵多事ならんとする時、彼の一擧手一投足は、大きな波紋を描き出すだらうと期待される。

昭和十一年二月十一日 印刷
昭和十一年二月十五日 發行

版權所有

政界第一線に立つ人々

定價十錢
（送料二錢）

著者 東京市麹町區有樂町二ノ二 小松丘彦
發行者 東京市芝區濱松町三ノ五 森田益雄
印刷者 東京市麹町區有樂町二ノ二 松本營亮
發行所 森田書房
電話銀座四七一〇・四八二四番
振替東京四二五一二番

全國配給所 冊子即賣書及會 森田書房
京阪神特約店 大阪市北區堂島上二ノ二五 新正堂書店
中國・四國・九州配給所 大阪府豐中町櫻塚一一〇六 森田書房西部支店

各驛賣店・ホームスタンド・街頭新聞スタンド・有名書店にあり

〔特約〕東京鐵道局公認（鐵道保養會・鐵道弘濟會・鐵道授產會）